



この3名がそれぞれの角度からコメント!

南部正司監督



全日本男子を率いて2年目の南部監督は、ワールドカップに挑むのも初めてとなる。自分たちのバレーを貫いて、狙うはもちろん、リオデジャネイロ

山本隆弘



2mの長身とサウスポーを武器に、全日本でも活躍し、03年のワールドカップではMVPとベストスコアラーを受賞した。13年に現役を引退している

増村雅尚



崇城大准教授、JVA科学研究委員会所属。幅広い経験を持ち分析も的確だが、その素顔は元全日本で、バリバリのコーチも務めるパワフルなオールラウンダー



龍神NIPPON

注目選手の技術・見どころ

ワールドカップ前に

チェック!

火の鳥NIPPONに続いて、9月8日からは龍神NIPPONが出陣する。世界の強豪に立ち向かう全日本男子の、注目選手たちのプレーにおけるチェックポイントを、3人のマスターがそれぞれの視点から分析！ 会場でも、テレビでもためになる観戦の手引きとして、しっかり押さえておこう

山本隆弘 CHECK!!
スパイクを打つ時の手に注目を

サーブでは、自分の場所でボールを捕れるかどうか、という部分が大事ですね。少し考えだして、ミスの続いたシーンもあったので、ここだと思ったらもう、迷わずやってみよう。

スパイクに関しては、ワールドリーグの最初のころに比べると、トスを若干浮かし始めて、跳んでからの時間にゆとりを持たせるようにしています。ブロックを見てしっかりと打っているのを、それを継続すれば世界にも通用するはず。あまりアゴが上がらないため視野が広く、逆手(左手)をしっかりと自分の打ちたいポイントに合わせて、前で捕らえられているので、かぶらず、きちんとしたフォームでハードヒットができていますし、どのコースでも打っています。ただ、彼は基本的にコー

トで勝負しないんです。あいてればコートへ抜きますが、ブロックがきていたらその指先など、当たらなければアウトというスパイクでも勝負していく。19歳にして、広い枠で勝負ができる選手です。スパイクの打ち分け方や、打つ時の手、指先の動きにも注目してみてください。

攻撃面でも、レセプションなど守備面でも軸にならないといけません。ワールドカップではまわりのサーブで狙われると思います。それに負けないように、しっかりと上上げてコンビが組める状況を作ってほしい。あと彼は、たまにトスを上げるところがおもしろいですね。ジャンプトスもきれいですし、海外で学んだプレーでトスを上げるフリをして打つこともできる。そういうところにも注目して見ると思います。



空中で駆け引きを繰り返す。幅広く打ち分けて得点を叩き出す能力はピカイチ。スパイクする手の動きは速いが、最後まで目で追いつけてみよう

スパイク時の手に注目

増村雅尚 CHECK!!
体幹のパワーはさらにアップ

基本的には、ジャンプしてから打とうとする(テイクバック)までの時間が、人よりも短かったのが彼のいいところですが、こしは体幹の力が去年より上がっているため、そこから打つまでの動作も速くなっています。

ただそこでは「反って戻す」という、体の前後の動きでスピードを稼いでいる部分があり、腰か背中少し負担がかかる可能性がありますので、若干心配です。もともと、肩甲骨を含め、きっちり体を使って打っていたのですが、肩甲骨まわりが少し動かなくなってきたのかもしれない。彼は柔らかく打っていますので、固めるだけのトレーニングではなく、柔軟性を保ちつつトレーニングをしていかなければいけない、と思いま

す。体幹も、肩もそうです。今はまだ肩が柔らかいので、レフトから少し体が左に傾いた状態でもクロスに抜けますが、もし硬くなってくると、クロスへそのようには打てなくなります。

去年よりも体幹のパワーが上がって、ひねり戻しの速度が増しているのはいいところです。単純に、トルクパワーという「力×速度」のグラフが上がってきています。

彼はテイクバックまでが速いのですが、そこから打つまでに時間をかけているのだと思います。だから、速く打とうと思えば打てるでしょうが、分析したデータはすべて試合中のものだったので、空中で駆け引きをしているのだと思います。

南部正司監督 CHECK!!
レセプションの関係を詰めて本番へ

ももとのバレーセンスや勝負強さを持ち合わせた選手です。ただ、少しヒザの状態が悪いので、フォームへの影響も心配な部分はあります。ワールドリーグでも、後半にはやはり、ヒザの関係でレセプションが少々崩れていたのを、そこをしっかりと修正してワールドカップに入っていくといい。レセプションについては、まず自分の形。捕る時のフォームをもう一回、しっかりと修正して、あとは横(の選手)との関係ですね。これもワールドリーグですって言った部分ですが、若干、意思表示のタイミングについても、やはり下級生だから遠慮しているのか、まだ少しそういうところは改善の余地があります。何でもないサーブが、2人の関係によってぎくしゃくして乱れるというのはもったいないので、そこはしっかりと詰めてワールドカップに入っていければ、と思います。



山本隆弘 CHECK!!
ブレないサーブで主役を狙え

サーブが日本一いいと言われているとおり、初速が速く、ボールの回転も他の選手と全然違います。彼のフォームでは、常にハードヒットできる状態の、自分のポイントがしっかりと一定のところにあつて、そうズレることがないのはいいところだな、と思います。しっかりと軸を保つままヒットできています。トスがよくないと、こういうフォームはできませんので、相当トス練習をしているのではないのでしょうか。背筋と腹筋をしならせて、体全体のバネを使って打っていますし、スパイクに

左手を上げて軸を作り、体のバランスをキープ。テイクバックから、肩の柔らかさを生かしたスイングスピードは世界にもひけを取らないという

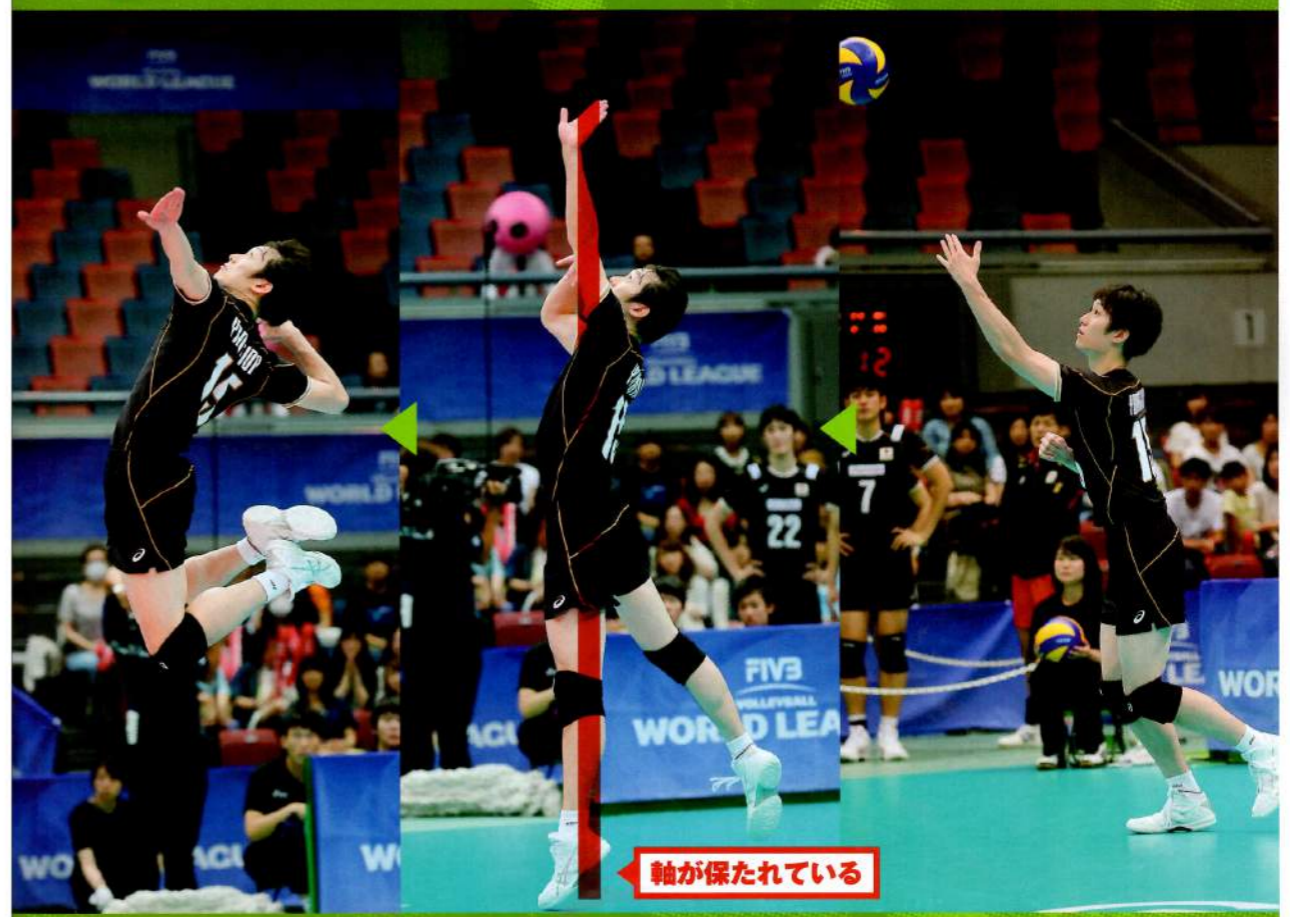


増村雅尚 CHECK!!
世界レベルのスイングスピード

彼も、石川と同じく肩甲骨まわりが柔らかいですね。スパイク時、テイクバックの時間はかかるのですが、去年は、インパクトまでに戻すスピードが石川よりも速かったため、軸じりが合っていました。準備が遅いのですが、ひねってから戻すまでのスピードが速いというのが彼の特徴です。その戻すスピードは、世界のプレーヤーよりも速いです。やはり肩まわりだと思いますが、柔らかさというか、伸びて縮む、その“ピュン”と縮むスピードが速くて、結果スイングが速い。要するに、テイクバックは遅いのですが、スイングは速いです。サーブもバランスはいいですね。体を反って戻す、ひねって戻す、といった動かし方と言いますか、ボールにきちんと力が伝わるような動かし方をするとという意味でバランスがとれています。トスもうまく、トスと体の使い方がいいですね。もともと、ナチュラルな体の柔らかさを持っているので、さらに伸びる余地もあると思います。

NEXT
4

Masahiro Yanagida
柳田将洋
1992年7月6日生(23歳)
WS/サントリーサンパース / 186cm・80kg / 最高到達点335cm
慶應義塾大卒



軸が保たれている

南部正司監督 CHECK!!
サーブが武器の頼れる切り札

彼の長所は、やはりサーブです。これは日本チームにとっては得点源であり、一つの大きな武器ですね。しかし、これまでに何度か話しているように、ハイボール(高い二段トス)などのスパイクは去年のほうがいいのではないかと、ということでフォームを分析し比べてみました。やはり若干変わってしまいましたが、もう一度いいイメージ、いい感覚を戻してほしいと思います。また、レセプションとディグについても、しっかりとベースを磨いてもらって、持ち味のハイボールはさらにレベルを上げてもらいたい。少々身長が周囲より低くて、ブロックに影響が出たとしても、それらの仕事さえきっちりしてくれば、彼のサーブでブレイクを取れますし、レセプションが乱れてもハイボールで決めてくれば、サイドアウトも取れるのですから。劣勢の時、レセプションが崩れてどうしようもない時には、レシーブ固めで入れるメンバーチェンジと、ハイボールを打つ技術がある、レベルの高い選手を入れるパターンとの2つがあると思います。そういった意味でも、元に戻すというのではなくて、より技術を伸ばして欲しいですね。

山本陸弘 CHECK!!
高打点からコートの角へ

試合での1ポイント、また一つのミスが、すべて彼の成長材料です。Aクイックに関しては、ほかのミドルブロッカーよりかなりネットから離れて、しっかりと自分が振り切れる位置でジャンプできています。そうすれば、自分の一番高いところでハードヒットできるわけです。練習を重ねているBクイックでも同じように(スペースを)あけており、トスは相当高いですよ。そうすると、前にブロックが跳んでいても、少し(左右に)切れば抜くことができます。これが打てるのは大きな武器ですね。クイックに対して、レシーバーは前に詰めてきますので、彼の打点からコーナーへ打てば、まず相手は捕ることができません。そんな、極端に角度をつ

ける必要はないのです。Bクイックが決まりだすと、センターからのバックアタックも有効になります。もう少し自信がついてくれば、もっと(トスを)呼び込む声も増えて、チームとしてのリズムも上がってくると思います。まだ経験も浅い中、周りにのみ込まれることなく“当たって砕けろ”でやってほしいですが、逆にOQT(オリンピック最終予選)を考えると、ここでプレッシャーを感じてもいいと思います。OQTは、さらにヤバイですから!



増村雅尚 CHECK!!
いい時の高さはワールドクラス

クイックについて、決まる時は高いです。きちんとトスが上って、ちゃんとした状態で打っている時の高さはワールドクラスです。サーブも、単純に高いところで叩くだけなのですが、それがいい。ジャンプフロッターで、あれだけの高さで打てるというのは、チームでナンバーワンじゃないですか。角度がついて、どこにくるかわからず、変化するというサーブは、結構崩れるんです。ある意味ではヘタですが、例えば狙って“よし、あそこにくぞ”という雰囲気やポンと打って、全然違うところにいったら、相手はびっくり

します(笑) それが“ヘタ”ということなのですが、それがいいんです。スパイクもそうですが、石川たちのように、肩甲骨を使ったり体のひねりを使ったり、というところの経験値は、まだ足りません。今のところはセッターとのコンビネーションの中で打ち分けているだけなので、いずれは自分で打ち分けることが課題になってきます。ただ、今はムリに打ち分けようとして縮こまるよりは、高さを出して、身長を生かして、小さくならないように打つ、というのが彼のポイントですね。

NEXT
4

Akihiro Yamauchi
山内晶大

1993年11月30日生(21歳)
MB / 愛知学院大4年 / 204cm・72kg / 最高到達点348cm
名古屋市工芸高卒



南部正司監督 CHECK!!
まだまだ伸びるハイタワー

まだブロックステップの部分では、状況に応じて、できていないところがあります。ただ、オーソドックスな攻撃展開の時などは、ある程度ステップも踏めるようになりました。攻撃でも高さは生かされていますが、どうしても正面に打ってれば、やはり相手ブロックにもタッチを取られますので、“高さが100%生きているか”というと、まだそこまでは引き出せていないです。ただ前衛に限らず、ディグも結構上げますし、ジャンプフロッターサーブも効果的でいいものがあります。すべてにおいてある程度、能力を兼ね備えていますね。ただ、今はやはり、少しオフェンス力が強いので、そこはこれからももっとと、パワーをつけるというよりはテクニック、技術の面を積極的に身につけてほしい。伸びしろはたくさんあります。これからも、成長の度合いというところの期待はしておいてもらえれば、と思います。





山本隆弘 CHECK!!
プレー幅も広がった“その一打”に注目

ベテランの域にもなってきましたし、リオ五輪までで勝負をかけているような雰囲気が出ています。ワールドリーグでは主将を務めて、周囲も見えるようになっていました。そこはやはり唯一のオリンピック経験者です。周りが見えている分、自分のプレーにも余裕が出てきて、全部が全部コートで勝負しなくなりましたね。無用の勝負を避けてつなぐプレーに徹することもできており、単に“バブルゴリ”と言われて、何でも全部勝負していたかつてのゴリ(清水)ではなくなってきています。

彼の場合は、4年前やその前も見ていた人が多いでしょうから、プレーの幅がどんどん増えて、この4年、8年でどう成長したのか、という部分を見てもらえればおもしろいと思います。大学生の時から入っているわけですから。

レフトからも二段トスを打てるのが彼の持ち味です。利き目が右なんです。普通、左利きなら利き目も左で、僕だったらレフトだと右に顔を向けたいと思えないのですが、彼は右側も見えろのが特徴ですね。

周りにも、清水の背中を見ている若い選手は多いと思います。ワールドカップ、そしてOQTと“清水だけはブレない”というふうになっていけば、そうそうチームが崩れることはないかな、と思います。勝負どころでトスは必ず上がってきます。そこでどう打ち切っていくのか、または流れを切らさないように、つなぎのプレーも考えながら打てるのか。見ていればわかると思います。石川と同じく、二段トスを打つ場面は多いですから、そこが見どころになるでしょう。



増村雅尚 CHECK!!
特徴を生かして勝利へ導け

彼はライン(ストレート)に体を倒して、左肩を中に入れてもクロスに打てるのですが、逆にクロスに向けて、肩を止めた状態で、手(腕)でラインに打つこともできる。腕、背筋ですかね。それが特徴というか、いいところです。フォームと逆方向のコースを打つので、相手にとってはある意味、わかりにくいんです。タイミングの面でも、クロスに向けた状態で、左肩を出さずにラインに打つので、ラインのタイミングは早く、決定力が高いです。

サーブは、きれいにトスが上がり、きちんと左肩が出た状態で打てば強烈なサーブが入ります。トスを安定させることがポイントですね。

レフトから、きれいにクロスへと抜いたシーン



Kunihiro Shimizu
清水邦広
1986年8月11日生(29歳)
WS/パナソニックパンサーズ/193cm・94kg/最高到達点340cm
東海大卒



ライトからのライン(ストレート)スパイクは清水の持ち味の一つ。高い決定力を誇る

南部正司監督 CHECK!!
そのスパイクが勝敗を左右する

清水はワールドリーグでも後半になるにつれて、ハイボールの打ち方がうまくなりました。被ブロック本数も、ミスも減ってきています。さらに軟攻などをうまく使い、そういったところで彼のスパイク効果率が上がることが、チームの勝敗を左右すると思っていましたが、やはりそれとおりになっています。彼がある程度の数字をキープしてくれると、その試合では、しっかりセットを取って勝利に持っていけるのです。もちろん試合によってはブロックされる時もあるのですが、徐々に、そういった自分の役割をまっとうする試合が増えてきました。彼に期待するのは、ハイボールの対処時における技術の向上と、あとはサーブです。以前に比べて、スピードサーブの精度が最近では落ちていまして、その精度が上がれば、要所で打つハーフスピードのサーブも効いてきます。もう一回、そのあたりもしっかり修正してワールドカップに挑んでほしいです。

